

# 住宅価格・賃料高騰で住まい選びは多様化の時代へ

都心部の新築マンションは平均価格で1億円の状況が続いている。購買層は絞り込みが厳しさを増している。実需目的の購入検討者は中古や郊外など選択肢を広げて対応する必要がある。また市場では多様な入居層を受け入れるアーバン型住宅も登場し、その存在感を増しつつある。

や契約まで日本語以外に、英語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語・イングランド語・ミャンマー語の6ヶ国語の対応が可能で、社長によると「建築界で最も若い社員が最も多く、学生寮や社員寮など低価格な物件で運用を担う相談されることが多い」と。実際に、件数で見てみると、

# 2026年不動産市場予測 住宅需給レポート